

2010 年度教職基礎学力テスト実施報告（第 10 報）

平野 眞

教職免許希望者の基礎学力の向上を目指すため 2010 年度も教職基礎学力テストを実施し、教職基礎学力テスト結果の合否を「教職論」の単位取得の必要条件とした。

教職課程では、教職論の授業内容についての評価と教職基礎学力テストの評価をそれぞれ独立して算出し、それぞれが合格基準に達しなければ教職論の単位を認定しないシステムにしている。教職論の授業内容についての評価は従来どおり S から E までの 5 段階評価とし、教職基礎学力テストの評価は出題全分野の合計である総合点を算出した後に、一定基準の点数以下を不合格とする合否認定方式とした。両方の結果を合わせて教職論の成績とするが、もし、教職基礎学力テストが合格であり、また教職論の授業内容についての評価が C 以上であれば、教職論の成績は授業内容の成績である段階評価値を以て学生に示される。

1. 試験問題の概要と実施方法

試験問題は国語 15 問（15 点）、数学 5 問（2 点×5 問の 10 点）、英語 10 問（10 点）、一般時事 10 問（10 点）、理科 5 問（5 点）の計 45 問で 50 点満点であった。問題内容については国語を重視する傾向を今年度も維持した。これは教育実習において、授業はもちろんのこと実習報告書の記述その他においても国語の能力の占める比重が大きいと考えているためである。

教職論の最終授業日に教職論の授業内容についての試験を行い、定期試験期間に教職基礎学力テストを実施した。教職論の開講クラスは水曜と土曜の 2 日にそれぞれ 2 時限ずつの計 4 時限あり、教職課程開講学科ごとに割り当てられているため、それぞれが同程度の難易度を持つ問題を 1 セメスターあたり 4 種類作成して使用している。

2010 年度の実施問題では、春セメの総合点の平均と標準偏差は 32.1 点と 6.63 点であり、秋セメの平均点と標準偏差は 32.5 点と 6.30 点であった。ほぼ同点数と考えられるが、ここ 4 年間の総合点の年間およびセメスター間の変動を調べるために年度別要因（2007 年度から 2010 年度の 4 水準）とセメスター別要因（春セメと秋セメの 2 水準）の組み合わせによる 2 要因分散分析を行ってみた（表 1 参照）。結果は、年度間にもセメスター間にも統計的有意差は見出されなかった（ $F(1, 3)=0.014$, n.s., $F(3, 3)=0.014$, n.s.）。この点から教職基礎学力テストの問題は一定の水準で安定していると考えている。

表 1 総合点推移

	春セメ	秋セメ
2007 年度	32.5	31.2
2008 年度	31.4	31.8
2009 年度	30.6	30.9
2010 年度	32.1	32.5

教職論は学部によって開講セメスターが異なるため、春、秋の 2 回の試験実施となる。ここではそれぞれの学期の結果を報告する。ただし、学生は所属学課の時間割の都合により必ずしも自学科の開講セメスターに教職論を履修するわけではない。

2. 試験実施結果

春セメスターでは、湘南校舎で教職論を開講した学部の学生（主として文学部、教養学部の 1 学科（HN）、政治経済学部、SC を除く理学部、健康科学部）、海洋学部の学生、および前年度までの不合格者と未受験者を含めて 523 名が教職基礎学力テストを受験した。

秋セメスターでは残りの全学科の教職論履修学生および前回の不合格者を合わせて 533 名が受験した。2010 年度の総受験者数は 1056 名であり、昨年（07 年度 1052 名、08 年度 995 名、2009 年度 943 名）に比較するとやや増加している。以下、セメスター別に報告する。

2-1. 春セメスターの実施結果

2-1-1. 全体的傾向

表 2-1 は、湘南校舎で春セメスターに教職論を履修し、教職基礎学力テストを受験した学生の基礎統計表（受験学生数、平均点、標準偏差、最低点、最高点）である。図 1 には総合点（50 点満点）のヒストグラムを示した。全体的には平均 32.1 点を中心とした正規分布と考えられるが、平均点から最高点および最低点までのレンジをそれぞれ計算すると、最高点までは 13.9 点、最低点までは 23.1 点であるから、総合点はやや低得点側に偏り、その分低得点者が多いと考えられる。分野別では、やや理科の得点が低いように感じられるが統計的な有意差は見られず（ $\chi^2=0.08$, $df=4$, n.s.）、どの分野も 60% 程度の得点が得られていると見なせる。以下に学部別の結果を示す。

2-1-2. 学部別傾向

0B 生の学部別（受験学生数が 20 名以上の学部である文学部、政治経済学部、法学部、理学部、海洋学部および再履修生の計 6 群）の基礎統計表を表 2-2 に示した。受験者数が学部ごとに異なるために単純な比較はできないが、文系学部である文学部、政治経済学部、法学部は国語と時事の点数が高く数学、理科の点数が低い傾向がみられ、他方、理系学部の理学部、海洋学部ではその逆の傾向がみられる。そこで、国語から理科までの各分野の総計となる総合点について学部別に示してみると図 2 のようになった。

この図によれば再履修生および 5 学部間の総合点には差が存在するように思われるので、これら 6 群の総合点について 1 要因分散分析と多重比較を行い、表 2-3 と表 2-4 に示した。その結果、6 群の総合点の間には差がみられた（ $F(5, 522)=20.56$, $p<.01$ ）。その傾向をまとめると、まず、文系 3 学部間の総合点には大きな差はみられないが、理系 2 学部は文系学部より少し高い傾向があった。これは理系の数学、理科の得点が高いことに起因すると考えられる。逆に言えば数学、理科に関しては中学校卒業程度の問題水準に対して文系の得点が低すぎるとも言える。次に、政治経済学部を除く 0B 生の総合点は再履修者の結果より高い傾向がみられた。このことは、9A 生中心の再履修生では、再履修による錬成期間があっても教職基礎学力が余り伸びないことを意味する

表 2-1 2010 年春セメスター得点統計表（湘南校舎 春セメ教職論で 20 名以上の受講学生を含む学部と再履修生）

	国語（15 点）	数学（10 点）	英語（10 点）	時事（10 点）	理科（5 点）	総合点（50 点）
学生数	523	523	523	523	523	523
平均点	9.7	6.4	6.7	6.6	2.6	32.1
標準偏差	2.24	2.97	2.12	1.59	1.30	6.63
最低点	3	0	1	1	0	9
最高点	15	10	10	10	5	46

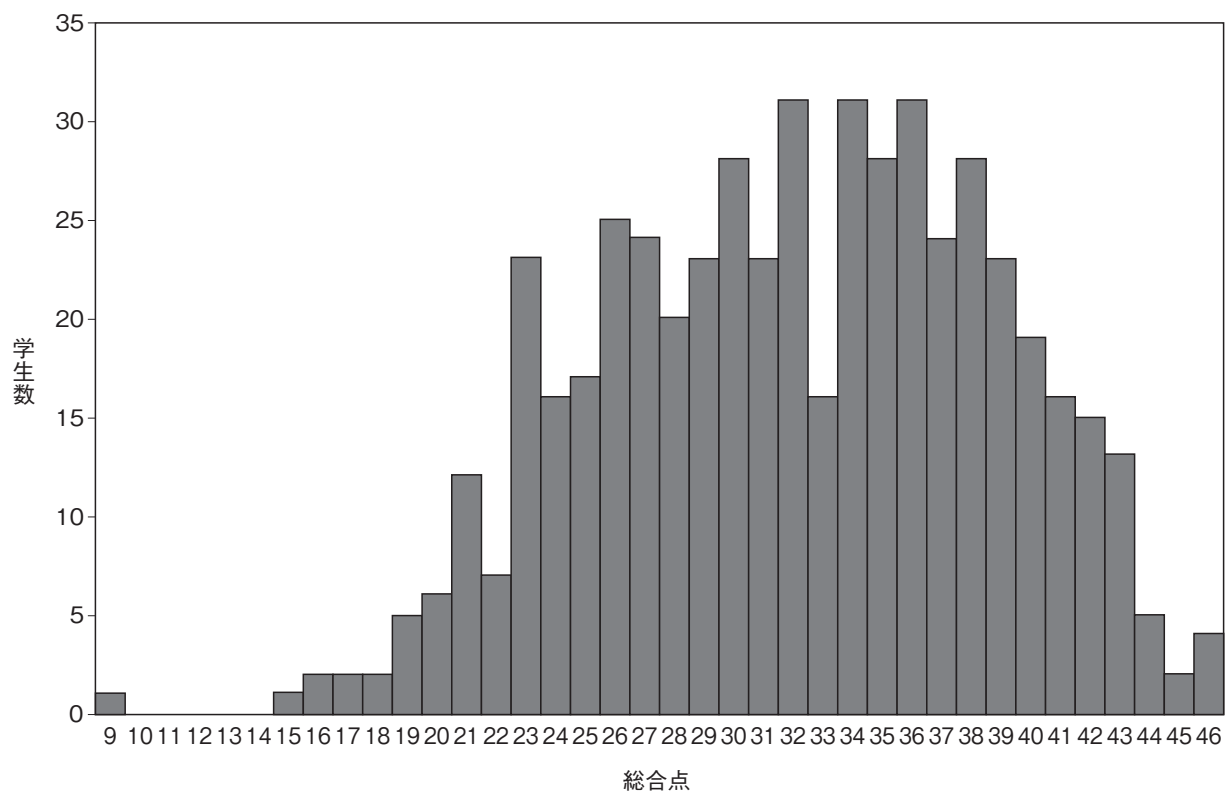


図1 春セメ総合得点分布

表2-2 春セメ学部別統計表

文学部 (0B 生のみ)

	国語 (15 点)	数学 (10 点)	英語 (10 点)	時事 (10 点)	理科 (5 点)	総合点 (50 点)
学生数	162	162	162	162	162	162
平均点	10.8	5.7	6.8	6.8	2.2	32.2
標準偏差	1.95	2.93	2.11	1.44	1.15	6.20
最低点	6	0	2	2	0	16
最高点	15	10	10	10	5	44

政治経済学部 (0B 生のみ)

	国語 (15 点)	数学 (10 点)	英語 (10 点)	時事 (10 点)	理科 (5 点)	総合点 (50 点)
学生数	44	44	44	44	44	44
平均点	9.7	5.6	6.6	6.9	2.0	30.8
標準偏差	2.18	2.77	2.22	1.68	1.06	6.49
最低点	5	0	2	2	0	19
最高点	14	10	10	9	5	44

法学部 (0B 生のみ)

	国語 (15 点)	数学 (10 点)	英語 (10 点)	時事 (10 点)	理科 (5 点)	総合点 (50 点)
学生数	22	22	22	22	22	22
平均点	10.2	6.5	6.5	6.8	2.3	32.3
標準偏差	2.17	2.97	2.36	1.23	1.20	6.09
最低点	7	2	1	5	0	21
最高点	14	10	10	9	5	40

理学部（0B 生のみ）

	国語（15 点）	数学（10 点）	英語（10 点）	時事（10 点）	理科（5 点）	総合点（50 点）
学生数	133	133	133	133	133	133
平均点	8.8	8.9	7.4	6.7	3.7	35.5
標準偏差	2.12	1.55	1.62	1.50	1.01	5.08
最低点	4	2	3	3	0	15
最高点	14	10	10	10	5	46

海洋学部（0B 生のみ）

	国語（15 点）	数学（10 点）	英語（10 点）	時事（10 点）	理科（5 点）	総合点（50 点）
学生数	34	34	34	34	34	34
平均点	9.8	8.2	7.3	6.6	2.7	34.6
標準偏差	1.62	1.99	1.93	1.37	1.02	4.16
最低点	7	2	4	3	1	26
最高点	14	10	10	9	4	43

再履修生（9A 生以下）

	国語（15 点）	数学（10 点）	英語（10 点）	時事（10 点）	理科（5 点）	総合点（50 点）
学生数	129	129	129	129	129	129
平均点	9.2	4.9	5.9	6.2	2.3	28.3
標準偏差	2.28	2.59	2.17	1.72	1.14	6.46
最低点	3	0	1	1	0	9
最高点	14	10	10	10	5	43

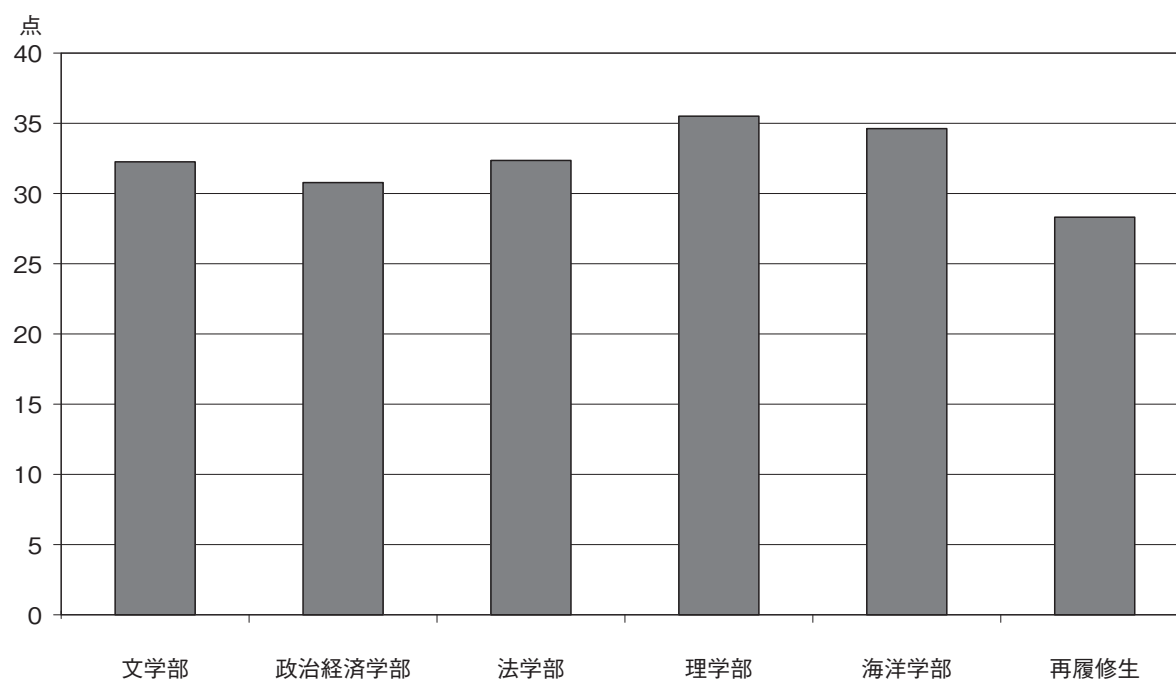


図 2 各学部および再履修生の総合点

表 2-3 分散分析表

	平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	**：1%有意 *：5%有意 判定
要因	3591.47	5	718.29	20.56	0.00	**
誤差	18233.98	522	34.93			
全体	21825.45	527				

表 2-4 多重比較表

	文学部	政治経済学部	法学部	理学部	海洋学部	再履修生
文学部				**		**
政治経済学部				**	*	
法学部						*
理学部						**
海洋学部						**
再履修生						

と考えられる。

2-1-3. 春セメスターの評価基準

表 1 に示したごとく 2010 年度も総合点の平均が大きく変化していないことから、春セメの評価基準は 26 点以上を合格（25 点以下不合格）とした。不合格の基準値である 25 点は満点の 50%に相当するが、評価基準をその値に定めることは、現在までの不合格基準点とほぼ同じであり現在までの受験学生にとっても不公平感がなく妥当と考えられる。合格者と不合格者の数を OB 生と再履修生別に表 2-5 に示した。合格者は 429 名（82.0%）で不合格者は 94 名（18.0%）であり例年と大きく変化していないが、表 2-5 と図 3 に示すように、不合格者の比率は再履修生で格段に高い。これは先に述べた如く再履修生での基礎学力の伸展が認められないことに起因すると考えられる。

表 2-5 春セメ評価表（26 点以上合格）

	OB 生	再履修生	計
合格者	346	83	429 名（82.0%）
不合格者	48	46	94 名（18.0%）

表 2-6 に、合格者、不合格者別の得点統計表を示した。合格者と不合格者の得点率を出題分野別に比較し、どの分野で得点率の差が大きいかを調べた。国語での得点率の差は 14.7%，数学で 43.0%，英語で 27.0%，時事で 17.0%，理科で 24.0%であり、数学と英語での失点率が高いことがわかった。

2-2. 秋セメスターの実施結果

2-2-1. 全体的傾向

秋セメスターに教職論を履修し教職基礎学力テストを受験した 20 名以上の学部は、教養学部（HN を除く）、体育学部、理学部 1 学科（SC）、工学部であり、これに再履修および未受験の学生を加え計 533 名が総受験者数となった。表 2-7 に、出題分野別および総合得点についての基礎統計表を、また図 4 に総合得点のヒストグラムを示した。最初に述べたように総合得点の 32.5 点は春セメ（32.1 点）に比べ統計的に有意ではなく、春秋ともに同程度の水準だと考えられる。図 4 に示されるように全体としては正規分布しているが、平均点から最高点および最低点までのレンジをそれぞれ計算すると、最高点までは 14.5 点、最低点までは 20.5 点であった。春セメ

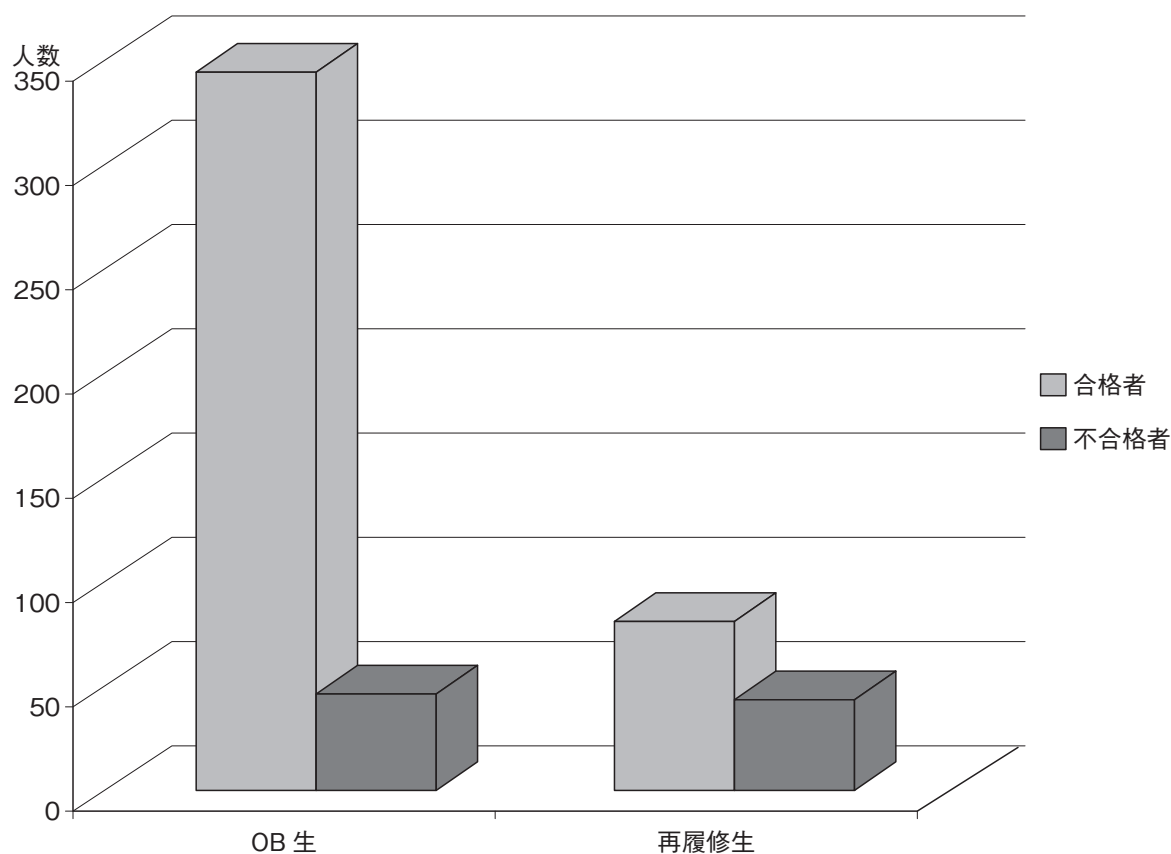


図 3 OB 生と再履修者別の合否人数

表 2-6 春セメ合否別統計表

10 春 合格者

	国語 (15 点)	数学 (10 点)	英語 (10 点)	時事 (10 点)	理科 (5 点)	総合点 (50 点)
学生数	429	429	429	429	429	429
平均点	10.1	7.2	7.2	6.9	2.8	34.3
標準偏差	2.12	2.56	1.91	1.46	1.25	5.08
最低点	4	0	1	2	0	26
最高点	15	10	10	10	5	46

10 春 不合格

	国語 (15 点)	数学 (10 点)	英語 (10 点)	時事 (10 点)	理科 (5 点)	総合点 (50 点)
学生数	94	94	94	94	94	94
平均点	7.9	2.9	4.5	5.2	1.6	22.2
標準偏差	1.84	2.00	1.64	1.40	1.07	2.72
最低点	3	0	1	1	0	9
最高点	12	8	8	8	4	25

表 2-7 2010 年秋セメスター得点統計表 (湘南校舎秋セメ教職論で 20 名以上の受講学生を含む学部と再履修生)

	国語 (15 点)	数学 (10 点)	英語 (10 点)	時事 (10 点)	理科 (5 点)	総合点 (50 点)
学生数	533	533	533	533	533	533
平均点	9.8	6.5	6.6	7.0	2.7	32.5
標準偏差	1.98	2.67	2.12	1.70	1.24	6.30
最低点	3	0	1	1	0	12
最高点	14	10	10	10	5	47

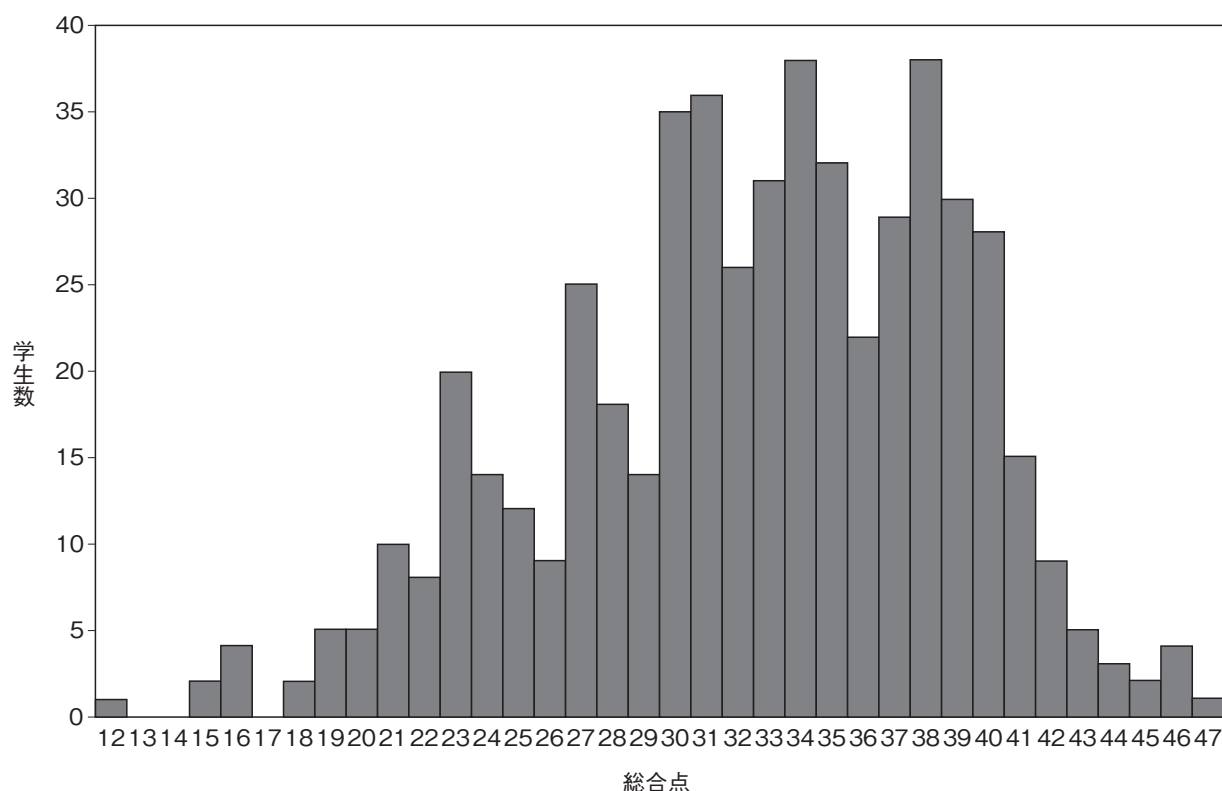


図 4 秋セメ総合得点分布

と同様の傾向がみられる。分野別ではどの分野も大よそ 60% 程度の得点が得られていて統計的には差はない ($\chi^2=0.08$, $df=4$, n.s.)。

2-2-2. 学部別傾向

春セメと同じく学部別に得意分野があると考えられるので、以下に 4 学部と再履修生別の基礎統計を表 2-8 に示す。また、総合点の結果を 4 学部と再履修生別に図 5 に示した。ただし、秋セメでは再履修者に 0B 生が含まれるため、分析対象の再履修学生は昨年度までの 9A 生とした。

図 5 によれば再履修生および 4 学部間の総合点には差が存在するように思われるので、これら 5 群の総合点平均について 1 要因分散分析と多重比較を行い、表 2-8 と表 2-9 に示した。その結果、5 群の総合点の間には差がみられた ($F(4, 451)=11.34$, $p<.01$)。多重比較の結果、理学部と工学部の総合点はやや高く、体育学部が低くなっていることが分かった。そして春セメと同様に 9A 生が主体の再履修生の得点は明らかに 0B 生より低くなっている。これらの傾向は春セメと同様で理工系の数学、理科の得点が高いこと、および再履修生伸びの弱さによると考えている。

表 2-8 秋セメ学部別統計表

教養学部（HN を除く 0B 生のみ）

	国語（15 点）	数学（10 点）	英語（10 点）	時事（10 点）	理科（5 点）	総合点（50 点）
学生数	42	42	42	42	42	42
平均点	9.2	5.5	6.8	7.5	3.1	32.1
標準偏差	1.84	3.09	1.94	1.55	1.23	5.64
最低点	4	0	4	4	1	20
最高点	14	10	10	10	5	43

理学部（SC 0B 生のみ）

	国語（15 点）	数学（10 点）	英語（10 点）	時事（10 点）	理科（5 点）	総合点（50 点）
学生数	26	26	26	26	26	26
平均点	8.8	8.6	7.6	7.9	3.6	36.5
標準偏差	2.11	1.68	1.90	1.37	0.90	4.27
最低点	5	4	3	5	2	28
最高点	14	10	10	10	5	44

体育学部（0B 生のみ）

	国語（15 点）	数学（10 点）	英語（10 点）	時事（10 点）	理科（5 点）	総合点（50 点）
学生数	299	299	299	299	299	299
平均点	10.0	6.2	6.5	6.7	2.5	31.9
標準偏差	1.77	2.58	2.14	1.70	1.18	6.30
最低点	4	0	1	1	0	12
最高点	14	10	10	10	5	46

工学部（0B 生のみ）

	国語（15 点）	数学（10 点）	英語（10 点）	時事（10 点）	理科（5 点）	総合点（50 点）
学生数	41	41	41	41	41	41
平均点	9.0	7.9	6.6	7.7	3.8	35.0
標準偏差	1.75	1.97	2.08	1.46	0.96	5.16
最低点	5	2	1	4	2	16
最高点	12	10	10	10	5	46

再履修生（9A 生以下）

	国語（15 点）	数学（10 点）	英語（10 点）	時事（10 点）	理科（5 点）	総合点（50 点）
学生数	48	48	48	48	48	48
平均点	8.8	5.6	5.1	6.6	2.0	28.1
標準偏差	2.17	2.64	1.86	1.78	1.24	5.81
最低点	3	0	1	2	0	16
最高点	13	10	10	10	5	46

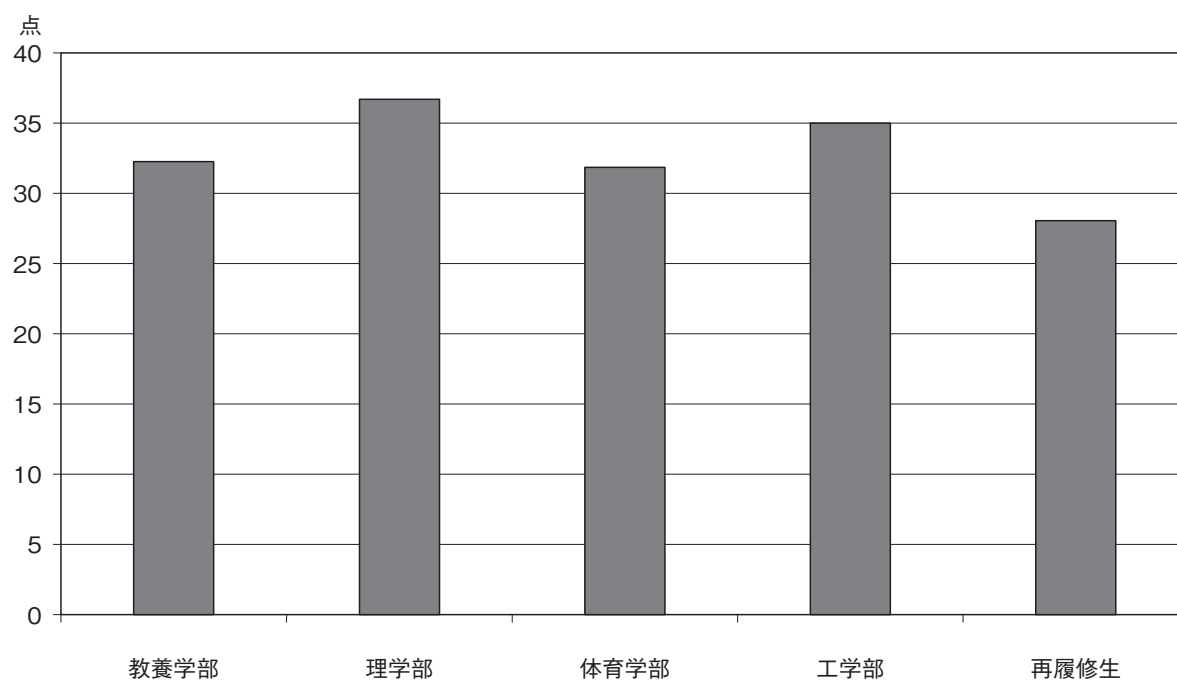


図5 各学部および再履修生の総合点

表 2-8 分散分析表

	平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
要因	1632.10	4	408.03	11.34	0.00	**
誤差	16226.73	451	35.98			
全体	17858.83	455				

表 2-9. 多重比較表

	教養学部	理学部	体育学部	工学部	再履修生
教養学部		*			*
理学部			**		**
体育学部				*	**
工学部					**
再履修生					

2-2-3. 秋セメスターの評価基準

秋セメも総合点 26 点以上を合格（25 点以下不合格）の絶対評価とした。今回の試験では表 2-10 に示したように合格者は 450 名（84.4%）で不合格者が 83 名（15.6%）であった。先に述べたように秋セメの再履修者に

表 2-10 秋セメ評価表

合格点	26 点以上
合格者	450 名（84.4%）
不合格者	83 名（15.6%）

表 2-11 秋セメ合否別統計表

10 秋 合格者

	国語（15 点）	数学（10 点）	英語（10 点）	時事（10 点）	理科（5 点）	総合点（50 点）
学生数	450	450	450	450	450	450
平均点	10.2	7.1	7.1	7.3	2.9	34.5
標準偏差	1.81	2.33	1.81	1.53	1.17	4.59
最低点	4	0	1	3	0	26
最高点	14	10	10	10	5	47

10 秋 不合格者

	国語（15 点）	数学（10 点）	英語（10 点）	時事（10 点）	理科（5 点）	総合点（50 点）
学生数	83	83	83	83	83	83
平均点	7.7	3.4	3.8	5.3	1.7	21.9
標準偏差	1.54	2.21	1.51	1.61	1.07	2.78
最低点	3	0	1	1	0	12
最高点	11	8	8	9	4	25

は 9A 生と 0B 生が合わさるため、0B 生と再履修者別の合否分析は行わなかった。

表 2-11 に、合格者と不合格者の分野別得点を示した。そして得点率を出題分野別に比較し、どの分野で得点率の差が大きいかを調べた。その結果、国語での得点率の差は 16.7%，数学で 37.0%，英語で 33.0%，時事で 20.0%，理科で 24.0%であり、春セメスターと同様に数学、英語での失点率が高いことがわかった。